



福岡市早良区
小松くん

去年、子どものための福岡城ツアーに参加して面白かったの、今年も野球観戦で時々来る福岡ドームや、海を見ながら歩けるコースがあった百道浜エリアのツアーを選んで参加しました。



福岡に引っ越して10年が経ち、もったこのまちについて詳しく知りたいと参加しました。以前も参加したのですが、その中で印象的だったのは九州大学内を巡った回。今年もどんな発見があるか楽しみに参加しました。



福岡市西区
田籠さん

参加者に聞きました



福岡市博多区
佐藤さん

このツアーに参加して、身近なまちなのというか、身近だからこそというか、史跡やまちの魅力について意外と知らないことが多いのをあらためて感じました。一人で気軽に参加できる雰囲気も楽しかったです。



歩いて観よう！ 「景観ガイドツアー」

のんびり「まちあるき」しながら、
多彩な景観を探索

毎回、様々なテーマで福岡市の景観の魅力を探る「景観ガイドツアー」。今年のテーマは都市景観賞25周年に因んで、ズバリ「都市景観賞受賞景観」です。

景観ガイドの解説を聞きながらまち歩きするツアーに今回応募したのは約200人（3エリア合計）の皆さん。「大濠公園エリア」では、国指定重要文化財の福岡城南丸多聞櫓や天守台から福岡簡易保険事務センターまで、福岡市の歴史を感じさせる景観を、「百道浜エリア」では世界的な建築家の個性あふれる建築物やお洒落な街並が続く景観を、そして「住吉・春吉エリア」では、住吉神社や寺町、博多の台所、柳橋連合市場などを、のんびりじっくり楽しみながら巡りました。こんな機会でなければ入ることのできないような施設に立ち寄るなど貴重な体験も満載で、参加者はメモを取ったり、カメラやビデオを撮影したりしながら、景観賞を受賞した名景観の数々を熱心に見学していました。

大濠公園エリア

9/10（土）9/11（日）

百道浜エリア

10/15（土）10/16（日）

住吉・春吉エリア

11/19（土）11/26（土）



紺屋2023シンポジウム 「都市景観って何だ」

みんなで考えて探ろう、
これからのまちづくりの行方

昨年度の都市景観賞で表彰され、「私の好きな都市景観コンテスト」にもエントリーする建物再生プロジェクト「紺屋2023」。そのプロジェクト主催によるアジアの食文化にふれるイベント「紺屋×屋台×亜細亜2021」の中でも「都市景観コンテスト」が行われ、さらに建築家野田恒雄氏と九州大学准教授池田美奈子氏が福岡市の都市景観について語り合うシンポジウムも開催されました。編集者やライターとしての活動経験も持つ池田氏は「編集という概念を使うと今まで見えなかった長所を浮き彫りにできることがある」と言い、「ありとあらゆるもの、例えば景観でさえも編集はできると思う。福岡は編集の仕方面白く

できるパーツが多彩にあるまち」と福岡の特徴について語りました。

一方「人も含めてその空間にある空気を意識した建築デザインがしたい」という野田氏は、福岡について「生活を楽しめるまち。それだけに、旅行で訪れるというより、住む生活することによって、本当の魅力が理解できるまち」と福岡の印象を述べ、「住んでいる皆さんが創造的に、楽しく生きようとすることで、まちの空気が形成されているのが福岡。これからのまちづくりの方向性もそのあたりを追求していくことがポイントでは」と今後の景観づくりについて提言しました。閉会後はシンポジウムで刺激を受けた皆さんが積極的にエントリー作品に投票していました。



PROFILE



いけだ みなこ
池田 美奈子 さん

九州大学大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門 准教授。東京芸術大学大学院修了。同大学助手、「日経デザイン」誌の編集記者を経て独立。2002年より現職。



のだ つねお
野田 恒雄 さん

no.d+a代表・アーキテクト。主宰、東京都立大学（現首都大学東京）工学部建築学科卒業。（株）青木茂建築工房を経て独立。2005年よりTRAVELERS PROJECT始動。

